

千葉商工会議所景気動向調査

平成25年8月期調査結果報告

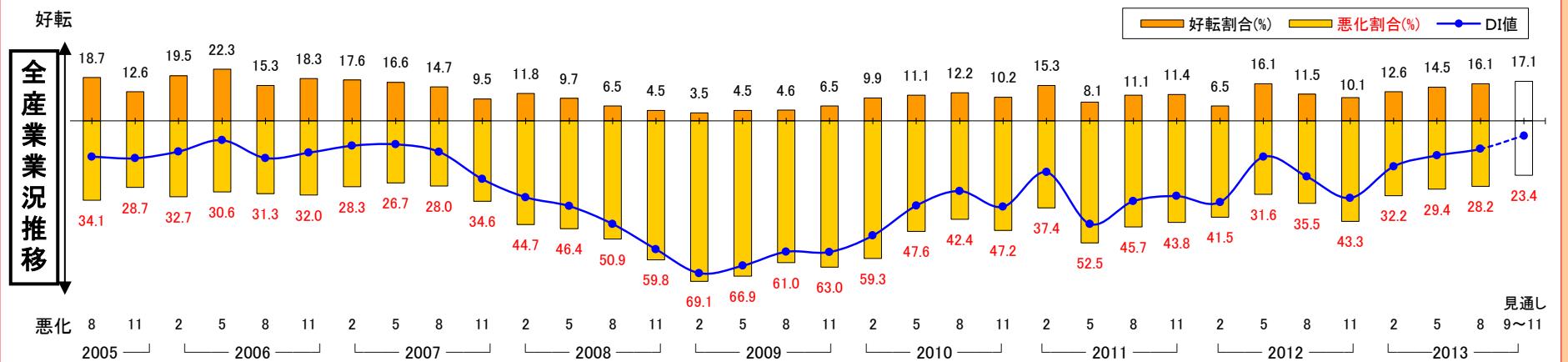
DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

調査期間：平成25年8月12日(月)～8月21日(水)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 416 社 回答率 83.2 %)



【全体の特徴】

8月の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成25年5月、以下同じ)と比較して、建設業、製造業、小売業の3業種で上昇した結果、全産業合計DIは2.8ポイント上昇して▲12.1となり、3期連続で上昇した。また、向こう3ヶ月(9～11月、以下同じ)の先行き見通しでも、全ての業種で上昇見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より5.8ポイント上昇の▲6.3となった。

売上DIでは、前回調査と比較して、すべての業種で上昇した結果、全産業合計DIは6.4ポイント上昇して▲9.5となり、3期連続で上昇した。また、向こう3ヶ月の先行き見通しでも、全ての業種で上昇見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より7.0ポイント上昇の▲2.5となった。

採算DIでは、前回調査と比較して、3業種で下降したものの、小売業、サービス業で大幅に上昇した結果、全産業合計DIは2.0ポイント上昇して▲20.2となり、3期連続で上昇した。また、向こう3ヶ月の先行き見通しでは、サービス業を除く4業種で上昇見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より6.3ポイント上昇の▲13.9となった。

今回の調査では、業況DI、売上DI、採算DIとも3期連続の上昇となった。ただし採算DIに関しては、前段のとおり小売業、サービス業で大きく上向いたこととは対象的に、卸売業で大きく、建設業と製造業でも小幅ながら悪化傾向にあり、原油・原材料高及び為替の動向(主に円安)が、採算に少なからず影響を与えていることが、企業の声からもうかがえる。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較し、業況DIは4.9ポイント上昇して6.1に、売上DIも0.8ポイント上昇して▲6.1となったが、採算DIは0.3ポイントと若干下降して▲9.8となった。業況DIと売上DIは2期ぶりの上昇、採算DIは3期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上向くとの見方となった。

企業の声としては「公共事業の土木工事は増加している」等の声の一方で「受注格差が広がっている」「発注先の単価引き下げが続いている」といった厳しい状況を訴える声もあった。

・製造業

前回調査と比較し、業況DIは6.6ポイント上昇して▲10.7に、売上DIも8.2ポイント上昇して▲4.3となったが、採算DIは3.0ポイント下降して▲23.7となった。業況DIと売上DIは3期連続の上昇、採算DIは3期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の

先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上向くとの見方となった。

企業の声としては「原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できず利益を圧迫している」といった声に代表される、原材料価格高騰が採算に悪影響を与えている旨の言及が多数あった。

・卸売業

前回調査と比較し、業況DIは3.4ポイント下降して▲23.4に、採算DIも14.6ポイント下降して▲38.4となったが、売上DIは4.2ポイント上昇して▲15.8となった。業況DIは4期ぶり、採算DIは3期ぶりの下降となり、売上DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上向くとの見方となった。

企業の声としては、円安及び原材料価格上昇が採算を圧迫している模様がうかがえる他、消費税増税に関して、増税前の仮需要を期待する声と増税後の悪影響を懸念する声があった。

・小売業

前回調査と比較し、業況DIは7.6ポイント上昇して▲27.5に、売上DIも17.3ポイント上昇して▲13.7に、採算DIも20.6ポイント上昇して▲24.0となった。業況DIは3期連続、売上DI、採算DIは2期連続の上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、採算DIは現状より上向き、売上DIは現状よりも下向くとの見方となった。

企業の声としては、円安や原油・原材料高の影響で「仕入代は上がっているのに売値が上げられない」「売上が上昇しても採算が合わない」といった旨の声が複数あった。猛暑により来店客数減少といった声もあがった。

・サービス業

前回調査と比較し、業況DIは2.1ポイント下降して▲6.4となったものの、売上DIは1.1ポイント上昇して▲8.8に、採算DIも9.0ポイント上昇して▲5.1となった。業況DIは4期ぶりに下降し、売上DIは2期連続、採算DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DIは現状より上向き、採算DIは現状より下向くとの見方となった。

企業の声としては、円安及び原油・原材料高によるコストアップ及び採算悪化を懸念する声の他、消費税増税前の駆け込み需要に関する言及もあった。

【調査結果のポイント】 * 業況は3期連続で上昇するも、原材料価格高騰・円安に対する懸念続く

【全産業】

